

自然と人間の共生 ホタルを守ろう



ホタルの里づくりを推進する全国6市町の代表者が6月18日、阿久比町に集い、「2016ほたるサミット in 阿久比」を開催しました。今回のサミットは、ホタル保護を通じて「自然と人間の共生」を目指すことを、阿久比町から全国に向けて情報発信しました。

勤労福祉センター（エスペランス丸山）で開かれたサミットは、平成元年から参加市町の持ち回りで行われており、今回で28回目です。阿久比町での開催は6年ぶり4回目で、町内外から約350人が参加しました。

「ほたるサミット」は、ホタルの保護を通じて、自然環境を悠久に守る道を模索するため、ホタルの里づくりを推進する市町の代表者が一堂に会し、活力あるふるさとづくりを考える交流の場です。今回サミットに参加したのは、和歌山県紀の川市、岡山県真庭市、福岡県北九州市、山口県下関市、滋賀県米原市、そして阿久比町の6市町です。

開催地を代表して竹内町長は「県内でも人口増加が著しい阿久比町ですが、残念ながらホタルの数については減ってしまっているのが現状。このサミットを通じて、『人とホタルが共生』できる自然環境を作るにはどうしたら良いかを皆さんとともに考えていきたい」とあいさつ。来賓祝辞では大村秀章愛知県知事が「日本の里山のシンボルであるホタルを守るために、6つの市町が協力することは大変素晴らしいと思います。ホタルを通じて素晴らしい自然環境を守り、次世代へ引き継いでいってください」と述べました。

6市町の代表者が意見交換をする「ほたるフォーラム」では「自然と人間の共生 ホタルを守ろう」を

テーマに、それぞれの市町で行っているホタル保護の取り組み（4ページで紹介）などを報告しました。

古くから人間と共生してきたホタルは、環境の変化に敏感なため、自然環境のバロメーターとして貴重な役割を果たしています。ホタルの淡い光は、私たちに心の安らぎを与えてくれるだけでなく、その環境が安全であることまで教えてくれます。

今回の「2016ほたるサミット in 阿久比」は、ホタルを通して自然環境をどのように守っていくかを、今一度考える機会となり、次世代へ“ホタルの光”を引き継いでいくための、実り多きサミットとなりました。

